



ふれあい

平成30年5月 NO2
発行 門川町教育研究所
所長 新原とも子
TEL 63-1566
五十鈴小学校内(教育相談室)

平成30年度研究員委嘱状交付式と第1回研究員会を開催！



門川町教育研究所では、本年度も児童生徒の「確かな学力の向上」に寄与するため、研究員として各学校から推薦された6名の先生方への委嘱状交付式と第1回研究員会を5月7日(月)に実施しました。今年度の研究は昨年度までの「ICT機器を効果的に活用した授業研究」を基礎としてさらなる充実・向上を図る研究内容に取り組む予定です。はじめに、委嘱状交付式と第1回研究員会の様子を紹介したいと思います。

委嘱状交付式



交付式で委嘱状を受け取ったあと、一人一人自己紹介を行いました。
今年度、新たに4名の先生が研究員となりました。昨年度から継続する先生が2名います。

委嘱された6名の研究員を紹介します！



新 門川小 成田 瑛 教諭

新 草川小 金丸 弘幸 教諭

新 西門川小 榎本 朋美 教諭

新 五十鈴小 児玉 晃太 教諭

継 門川中 茶園 龍樹 教諭

継 西門川中 吉田 義一 教諭



最後に、研究員を代表して西門川中学校の吉田教諭がICT教育の研究に力を合わせて取り組んでいく決意を述べました。

確かな学力の向上が使命



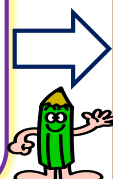
交付式終了後の第1回研究員会では新原教育長の講話を実施しました！



昨年と同様に研究員会最初の研修は新原教育長に「所長講話」をしていただきました。内容は研究所が取り組んできた研究の歴史や研究の流れ、研究所の果たす役割等について話され、研究員として、普及員として本町児童生徒の学力向上へ寄与することが皆さんの役割であると強調されました。最後に、「ゴールイメージを持って取り組むこと」と締めくくられました。



研究員はこれからの一年間、テーマを設定して学力向上を目指す研究に取り組めます。



研究員は原則として月2~3回程度、勤務時間終了後に五十鈴小学校内にある教育研究所に集まり研究課題に取り組みます。研究成果は、各学校で夏季研修を行い先生方の授業力向上を支援したり、2月の県教連研究発表大会で発表したり、毎月の広報紙「教育研修情報」やこの「ふれあい」を通して情報提供し、その普及に努めます。

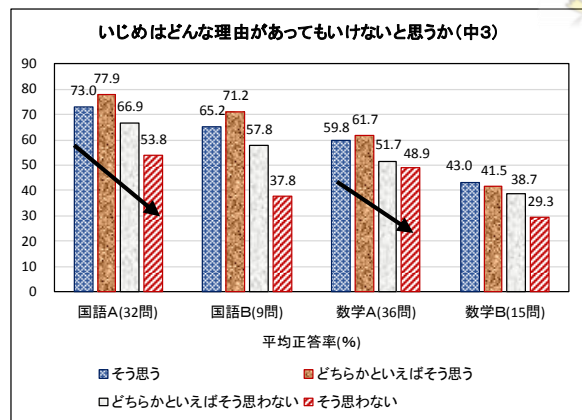
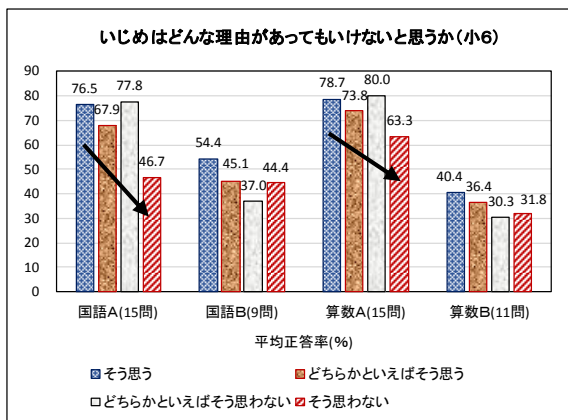
入梅！さて、お子さんの様子に気になる変化は見られますか？



大型連休もアツという間に過ぎ去り、爽やかな季節も終了です。ついに入梅となりましたが、まだ校舎の周りでは燕が元気に飛び交っています。この時期、子どもたちもようやく新しい環境に慣れてきますが、お家でのお子さんの様子はどうですか？先月号で「日常生活に表れる変化を見逃さないで！」を掲載しましたが、もう一度、我が子の様子を確認してみましょう。

いじめは「いけないことだ」と「思う」～「思わない」児童生徒と学力の相関関係は！

下図は昨年度の全国学力・学習状況調査での門川町小6児童・中3生徒の回答状況です。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」との問いに対して、「思う」～「思わない」の回答と、学力（正答率）との相関関係を表しています。（左が小6、右が中3）



グラフから「いけないことだと思う」児童生徒ほど、国語・算数(数学)ともに正答率が高くなる傾向にあります。「思う」と「思わない」の正答率差は小6で8.6～29.8、中3で10.9～27.4Pointもあります。小6と中3を比較すると中3の方が顕著です。グラフにはありませんが、集計結果から小6の96%、中3の94%がいじめはいけないことだと考えています。

今年度も連載

心に残った
本の一節



「誰もが昔は生徒でした。教室で、グラウンドで、先生がくれた言葉に、いま、ありがとう！」。ラジオ番組「ありがとう、先生！」のナレーター純名里沙さんのナレーションです。この番組が伝える、生徒に届けられた先生の言葉をまとめた本の一節を紹介します。

【出典：TOKYO FM 発行「ありがとう、先生！」より】

「気付き」をくれるコトバ～「友達は、自分を写す鏡」

～中学2年生のとき、友達関係で悩んでいた私に、ブラスバンド部の顧問の先生がかけてくれた言葉です。自分というものを示していけば、その自分に合った友達が自然にできるのだと、教わりました。

子どもの教育や子育てで、悩んでいませんか？

困った時には、教育相談室に気軽に電話をしてください。

相談電話（門川町教育相談室）
Tel・Fax 63-1566

～～返信欄（教育研究所便り「ふれあい」へのご意見やご感想をお聞かせください。）～～

